

2016年1月4日

三菱ケミカルホールディングス社長 越智 仁 2016年頭挨拶（要旨）

株式会社三菱ケミカルホールディングス

【2015年の振り返り】

安倍政権の経済政策により、過度な円高が是正されるなど、従来「7重苦」と称されていた企業活動への足枷が緩和され、原油価格が大きく下落したことを背景に、三菱ケミカルホールディングスとして最高益を維持している。関係者の努力に改めて御礼申し上げる。

世界の経済環境については、米国は堅調な国内景気及び雇用情勢を背景にゼロ金利の解除に踏み切り、欧州も緩やかな回復基調が続いているが、中国は成長スピードの鈍化がいよいよ鮮明となっている。国内景気は緩やかな回復基調にあるものの、原油価格の動向等不透明な要因も多く、引き続き状況を注視する必要がある。

【2016年は新中計「APITSIS 20」始動の年】

2016年は新たに策定した中期経営計画「APITSIS 20」の初年度である。三菱化学・三菱樹脂・三菱レイヨンの統合準備、田辺三菱製薬の海外展開、生命科学インスティテュートの健康・医療ICT事業の立上げ、大陽日酸の海外展開の加速など、“成長と変革への第一歩の年”と言える。

真にグローバルな「THE KAITEKI COMPANY」への進化のためのキーワードは、「成長」、「脱日本中心主義」、「差異化」の3つである。

「成長」にとって最も重要なのがビジネスモデルの構築である。化学3社統合をベースに、協奏、インテグレーションを強化することで、新たな製品、新たな市場の開拓を加速して、高成長・高収益型の事業体をどのように生み出すのか、海外での成長を加速させるための欧・米・中・アジアのマネジメント体制をどのように構築するのかなど、国内外のメンバーで検討を深めたい。

「差異化」については、ICT、IoT、AIが重要。「APITSIS 20」の次世代事業の中に“ビッグデータ・ICT利用ソリューション”を組み込んだが、サプライチェーン構築による高付加価値製品の開発・製造、健康・医療ICTなど、多くの事業でビッグデータ・ICTを応用することを期待する。

企業価値の評価として、財務価値のみならず非財務価値も重視されてきている。資源・エネルギーの効率的利用、気候変動への対応、水資源の確保などの重要な課題へのソリューション提供を推進すべくMOS指標を改訂した。KAITEKI経営の実践へ向け着実に取り組んで頂きたい。

【事故やコンプライアンス違反は企業の存続を揺るがす】

「コンプライアンスと安全」は企業のすべての基盤であり、「コンプライアンスと安全」をおろそかにすることは、企業の存続そのものを根底から揺るがす。一人ひとりが真摯に考え、誠実に行動することを徹底させていきたい。

【2016年度は「健康経営」のスタートの年】

企業にとって従業員は一人ひとりが企業価値を生み出す源泉であり、従業員にとって働き甲斐があり、生き甲斐をもたらす職場を作り上げることは、企業価値そのものの向上に直結する。

従業員の健康管理を経営の視点から考え、経営の明確な意志の下、従業員の健康増進を戦略的に実践する「健康経営」の方針を本年4月に打ち出す。2017年4月から実践できるよう各社で着実な準備をお願いする。

本件に関するお問合せ先 (株)三菱ケミカルホールディングス 広報・IR室 電話: 03-6748-7140

2016年1月4日

三菱化学社長 石塚 博昭 2016年 年頭挨拶 (要旨)

三菱化学株式会社

昨年は、米国経済が好調で、中国・欧州経済も危惧されたほどの減速は免れたなか、原油・ナフサ価格が3月に底を打ち、その後なだらかに上昇したこともあり、上期収益は増益となった。下期は原油価格が30ドル台前半まで下落し受払差損を計上する見込みであるものの、通期では予算を大きく上回る営業利益を計上できる見込みである。グループの総力を挙げて取り組んできた事業構造改革、固定費削減によって筋肉質な企業体質を取り戻したことの証左である。

2015年を振り返ると、石化については、5月に鹿島事業所の第1エチレンプラントを停止し、鹿島・水島のエチレンプラントはフル稼働を維持、ポリオレフィンについても生産の最適化を実施し、高機能な製品へのシフトが成果として具現化してきた。テレフタル酸は中国の過剰設備により厳しい状況が続いているが、2016年度中に抜本的な対策を行う。情報電子では、ガリウムナイトライド、有機EL等の事業の立ち上げに時間がかかっており、次期中計での引き続きの課題である。機能化学においては、韓国におけるイオン交換樹脂工場の完成によりアジア市場での拡販が期待でき、食品機能材ではエーザイフード・ケミカル社の買収決定、植物工場では小田原工場設備竣工など成長に向けた施策を着実に実施した。スペシャリティケミカルズにおいてはジャパンコーティングレジジンが発足し、三菱レイヨン、日本合成、当社の技術のプラットフォームを統合・整備し、飛躍の途をつけた。電池本部においては販売拡大等により本年度は黒字化を達成できる見込みであり、炭素本部においてはコークスを中心に安定して収益を計上している。

本年は、米国経済はゼロ金利解除の影響がまだ不透明ではあるが、個人消費、住宅投資が順調に推移し総じて好調を維持するだろう。中国・新興国も安定して成長、日本も円安効果があり一定の成長が見込め、世界経済全体として堅調に推移すると見ている。一方、昨年末のOPEC総会決議等の影響により、原油価格がどのように推移するかが懸念されるが、年末に向かって緩やかに反転するとみている。

4月には三菱ケミカルホールディングスの新中期経営計画「APTSIS 20」が始まる。その目標を達成するためには、第1に、安定収益の礎である安全・安定操業の維持、第2に環境変化に耐え抜くための固定費削減計画の継続、第3に誘導品・ポリオレフィン分野など石油化学事業の構造改革の推進、第4にリチウムイオン電池材料、LED蛍光体・ガリウムナイトライド、有機太陽電池の「新エネルギー事業」の早期実績化が重要となる。

2017年4月に当社、三菱樹脂、三菱レイヨンが統合するが、各事業の目指す方向は何ら変わらない。統合新社が当初から最大のメリットを発現できるよう、社員それぞれ力を発揮してほしい。

三菱化学としての最終年度に当たる2016年度を皆で素晴らしい一年にし、いい形で統合新社につなげていこう。

本件に関するお問合せ先:

(株)三菱ケミカルホールディングス 広報・IR室 電話:03-6748-7140

2016年1月4日

三菱樹脂社長 姥貝 卓美 2016年 年頭挨拶(要旨)

三菱樹脂株式会社

昨年日本経済は、景気回復の基調は大きく崩れないまでも消費の回復に対する確信が持てないもどかしさの中で終わった1年だった。今年は好循環を経済活動の中に確実に芽生えさせ活性化できるかが問われる年であり、個人消費・企業の設備投資が着実に増加していくことが期待されている。一方、中国経済の減速感、原油など資源価格への下方調整トレンドと新興国経済の下振れリスク、EU 経済圏の不透明さ、そして米国金融政策の行方など数多くのリスクファクターが存在する。変化は必ず起こる。三菱樹脂グループ員一人ひとりにとって大事なことは、日本・アジア・世界経済状況や事業環境が大きく変化していく中で、想定される様々なリスクを出来るだけ最小化しながら事業運営し、前進することが重要である。

昨年を振り返ると、インドネシアにおける透湿性フィルムの製造ライン、クオドラント社のスロバキアの工場、中国無錫でのポリエステルフィルムコーティング工場などが竣工した。今年は将来の成長に寄与するこれらの事業を健全に運営していくことが大切だ。現行の中期経営計画「APTSIS15・Plus」期間中に新設された海外グループ会社の中には、スムーズな立ち上げに手間取り、苦勞している事業もある。それらは様々なリスクを覚悟して進出した訳であり、腹を括って現地の市場に早く受け入れられるように製造・販売が一丸となって強力に事業を推し進めていく必要がある。

現中期経営計画も最後の3ヵ月を残すのみとなった。この4月には、新中期経営計画「APTSIS20・Plus」がスタートする。2015年度上期の業績は、前年比増収・増益で着地することができ、スプレッドの適正維持、在庫の適正化、生産効率の改善、固定費節減などが収益を支える力となっている。その後の業績も概ね順調に推移しており、事業体質改善に向けた皆さんの努力が一つひとつ蓄積され、結実してきている結果であり、改めて感謝したい。人間の体は普段からしっかり鍛えておくことで、多少の急な坂道も登り切ることができる。事業活動も然り。事業構造を鍛え、環境の変化をタイムリーに感ずるアンテナを研ぎ澄ましておけば進むべき方向が判断できるようになる。変化に対応できる応用力は基本問題を解決できる基礎力があってこそ初めて本当の実力と言える。

昨年12月、三菱ケミカルホールディングスグループの化学系3社の統合について発表が行われた。2017年4月の新社誕生に向け、今年は様々な準備作業が行われることになるが、当社グループの各事業は、新会社の組織の中で、それぞれが重要な事業として活動していくことが期待されている。新社誕生をチャンスと捉え、確実に事業を推し進めていきたい。

今年の干支は「丙申」。形が明らかになり、実が固まっていく状態という意味がある。今年2月、三菱樹脂は1946年の長浜ゴム工業の発足から70周年を迎える。この節目の年に、皆さんのこれまでの頑張りが具体的な成果として表れることを信じている。元気よく、健康で明るく頑張っていこう。

本件に関するお問合せ先 (株)三菱ケミカルホールディングス 広報・IR室 電話:03-6748-7140

三菱レイヨン株式会社 社長 越智 仁 2016年 年頭挨拶（要旨）

三菱レイヨン株式会社

日本経済は、安倍内閣による「三本の矢」、「新三本の矢」と経済活性化に向けた対策が取られ、漸く少し明るくなってきたように感じています。世界の経済環境については、米国は堅調な国内景気及び雇用情勢を背景に金利の引き上げに踏み切りました。欧州についても緩やかな回復基調が続いています。一方中国では「新常态(ニューノーマル)」移行に象徴される成長スピードの鈍化がいよいよ鮮明になっています。

さて、4月には三菱ケミカルホールディングスの新中期経営計画「APTSIS20」が始まります。APTSIS 20における三菱レイヨンとしての基本方針は、

1. KAITEKIの実現・グローバル化
2. ポートフォリオマネジメントの徹底
3. グローバル経営の強化
4. 「ものづくり」力の強化
5. 人を活かす経営一真のダイバーシティを推進

の5つで、従来の方針を引き継いでおります。

この中でも2点お願いしたいことがあります。

第一にコンプライアンス違反の撲滅と安定・安全生産です。事故や重大なコンプライアンス違反は、企業の存続そのものを揺るがしかねない重大な問題となりえます。我々一人ひとりが常日頃の行動において、疑問を抱き自らの頭で考え、一つひとつ改善していく他に方法はありません。身近な問題から着実に改善していきましょう。

第二に、従業員の健康度同上です。「働き甲斐のある、生き甲斐のある職場を作り上げ、ワークライフバランスもとれた状況を作り上げる」ことが重要です。経営者がトップダウンで進める戦略的構想、管理者が進める職場の快適化、従業員全員が進める自らの健康と体力づくりを「健康経営」といいます。2016年4月には、三菱レイヨンとして健康経営を推進することを宣言したいと考えています。

今年の干支は「丙申(ひのえさる)」であります。「丙」は形が明らかになってくることを示し、「申」は果実が熟成して固まってくる状態を示すといえます。従って「丙申」の年は、これまで日の目を見なかったものが形となって立ち現われてくる年であるといわれています。

2016年は、三菱化学・三菱樹脂・三菱レイヨンの化学3社の統合に向けた準備を筆頭に、三菱レイヨンとして大きな変革を迎える年です。新たな施策に挑戦し、さらなる成長の加速と変革の第一歩の年であると言えるのではないのでしょうか。

皆さんが、今年一年素晴らしい成果を生むとともに、健康でますます発展されることを祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

本件に関するお問い合わせ先
(株)三菱ケミカルホールディングス 広報・IR室 電話:03-6748-7140

2016年1月4日

株式会社生命科学インスティテュート社長 木曾誠一 年頭挨拶(要旨)

明けましておめでとうございます。

昨年は「One LSII」として LSII グループ一体経営の推進と事業の再構築を始動しました。10月には LSII に健康サポートプロジェクトを設置しました。これは LSI メディエンスの健康検診事業と健康ライフコンパスの連携を一層密にしていくためのものです。さらに同月、LSII 経理室に各社の経理・財務機能を統合しました。そして12月には LSII グループの次年度から始まる新中期経営計画 APTSIS20 を策定しました。

さて、今年ですが、まずは現在の中期経営計画である APTSIS15 を残り3か月しっかりと取り組んでいただきたい。そして4月からはいよいよ新中期経営計画 APTSIS20 がスタートします。われわれ LSII グループは One LSII として既存事業を3つのビジネスセクター:「健康・医療 ICT」、「次世代ヘルスケア」、「創薬ソリューション」に再定義し、シナジーを生み出しながら事業を展開していきます。グループ各社が協奏することによって既存事業の一層の強化・効率化を実現していくとともに、MCHC グループの協力も仰ぎつつ、社会が求めている健康に関するソリューションを LSII グループとして提供していきます。そのソリューションとは、ひとつは Wellness Solution、もうひとつは Medical Solution です。この2つのソリューションを提供することにより、LSII グループは KAITEKI 社会の実現に貢献していきます。われわれ LSII グループは、今後今後、協奏して新たな付加価値を生み出し、競争力を高めていきましょう。

最後に、コンプライアンス、品質、安全についてお願いします。われわれが従事している仕事は、人の命、健康に関わる非常に重要な仕事です。コンプライアンス、品質の確保、そして安全に業務を遂行する、これらに強く意識をはたらかせて、本年も業務に取り組んでいただきたい。

今年一年、皆さんとそのご家族のご多幸を祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

本件に関するお問い合わせ先
(株)三菱ケミカルホールディングス 広報・IR室 電話:03-6748-7140